

料理で幸せを届け、食の魅力を伝えていきたい

長年にわたり割烹料理店を営む一方、静岡県飲食業生活衛生同業組合（以下、飲食業組合）島田支部の支部長を務める浅井さん。食を通して人を幸せにしたいと、今年4月から市役所やプラザおるりで弁当販売を行うなど、飲食業組合の活動に力を入れて取り組んでいます。

【人との出会いを大切に】

島田市内で店を開いて今年で44年。地元食材を使った料理を提供し、平成28年度に「ふじのくに食の都仕事人」にも選ばれました。しかし当初は、自分が始めた店ではなかったと振り返ります。

「私は、愛知県岡崎市に生まれ、24歳の時に島田市で働き始めました。初めは自身の店を持つ気持ちはなく、色々な店で職人として働こうと思っていました。しかし、島田に

来て数年後、妻が店を持ちたいと言っ

て『三三九』を開店。約1年後から、私も本格的に店に出るようになりました。店名の由来である三三九度は、出会いを大切にするという意味合い。お客さんとの縁や絆を大切にしたいという思いで、料

ります。きっかけは、昨年11月に開催した『井まつり』。当日は行列ができ、予定よりも早く完売しました。反響が大きかったので、すぐに弁当販売の実施を考えましたが、コロナの影響で冬には開始でき



静岡県飲食業生活衛生同業組合島田支部長
あさいまさひろ
浅井雅弘さん(本通六丁目)

理を提供しています」

【食を通して地域と関わる】

「コロナ禍でもテイクアウトで食事を楽しんでもらいたいと考え、4月から飲食業組合で弁当販売を行って

ず、規模を縮小することで春からの開始にこぎ着けました。コロナ禍で苦しいこともあったけれど、リピーターも多く、毎回楽しみに待ってくれるお客さんがいることを、とても嬉しく思っています」

【真心で笑顔を広げる】

支部長としても、地域の活性化を試みる浅井さん。その発想は、仕事や日常の生活から得ていると言います。

「昨年、飲食業組合の冊子を作成するため、市内の障害者支援施設取材しました。飲食業に憧れる利用者が大勢いることを聞き、おいしい料理を知ってもらおうと、後日組合から弁当を振る舞うことにしました。私たちが作った弁当を届けると、子どもたちは本当においしそうに食べてくれました。あの時に見た子どもたちの笑顔は、一生忘れないと思います。食べた人から笑顔がふれるような料理を作り続けたいと、本心に勇気付けられました。これからも、みんなと力を合わせて前向きに取り組むを続け、島田全域の飲食店が明るく元気に営業することで、市内外に島田の魅力を伝えていきたいと思っています」

これまでさまざまな活動を通して、多くの笑顔を見つめてきた浅井さん。これからも、組合員とともに積極的に地域と関わり、食を通して真心を伝えていきます。



プラザおおるりで弁当を販売する浅井さん(右)

Shimadajin File #116

島田
Story 人